

8. 近畿（地域別調査機関：リそな総合研究所株式会社）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (近畿)	◎	百貨店（サービス担当）	お客様の様子	・今月も夏休みの人気キャラクターの催事や、インバウンド売上が好調であり、売上全体は5か月連続で前年を上回っている。また、土用の丑の日商戦や、紫外線対策商材も好調な動きとなっている。
	○	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・今年1月に近隣の姉妹店が閉店したため、8月30日までの来客数は前年比で5.8%増と好調に推移している。また、食料品は売上全体が前年比10.6%増となっており、特に百貨店が得意とする食料品ギフトが36.0%増、和洋菓子が17.6%増と好調であった。姉妹店の閉店による影響が一巡するまでは、今の好調が続く見込みである。
	○	百貨店（広報担当）	販売量の動き	・国内客の売上は、前年比で約1割の増加が続いている。その一方、免税売上は前年を上回っているが、前月までと比べて勢いがやや鈍化している。これが円高傾向の影響か、令和8年熊本地震などによる一時的な影響かは、今後注視する必要がある。
	○	百貨店（販促担当）	販売量の動き	・今月は来客数が好調に推移している。大きな天候の崩れもなく、暑さの影響で昼間の来客数はやや減少しているが、夕方からは増え、1日の平均では前年を上回っている。夕方からの来客数の増加で食品フロアの売上も伸びており、総菜や生鮮品に加え、菓子類も好調となっている。また、暑さ対策商材も好調であり、機能のしっかりした商材は、少し価格が高くても売れる傾向にある。
	○	百貨店（営業推進担当）	来客数の動き	・前年が大阪・関西万博の開催で落ち込んだ反動もあるが、3か月前と比べて、来客数、買上客数共に増加傾向にある。
	○	スーパー（店員）	販売量の動き	・お盆の期間は商品価格が上がっていたにもかかわらず、お供え用の果物がよく売れた。野菜も天候の影響で値上がりしていたが、よく売れている。
	○	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・暑い日が続く、ソフトドリンクの販売が伸びている。昼間の時間帯には、イートインスペースに涼みに来る年配客も増えている。
	○	家電量販店（人事担当）	販売量の動き	・猛暑が続くことで、エアコンや扇風機、ハンディファンなどの、暑さ対策商材の販売が引き続き伸びた。お盆以降は販売量が落ち着いてきたため、9月以降の動きが少し心配である。
	○	その他専門店 [ドラッグストア]（店員）	お客様の様子	・8月はお盆に帰省した客が増え、売上が伸びている。特に必要な物だけでなく、それ以外にも購入する客が多くなっている。
	○	高級レストラン （スタッフ）	販売量の動き	・コース料理に加え、ワインのペアリングをオーダーする客が増えてきたため、客単価が少し上昇している。
	○	一般レストラン （企画）	販売量の動き	・6月にやや悪化したが、7～8月は上向き傾向が続き、売上の前年比も今年度最大となった。また、来客数、客単価も同様に好調となっている。
	○	都市型ホテル （客室担当）	販売量の動き	・旅行会社経由の予約の取り込みが弱く、想定を大きく下回っている。前年は好調であった夏休み期間の利用も、今年の販売価格はエリア全体で低下傾向にあるなど、単価を下げた販売せざるを得ない。ただし、Web経由の予約はやや順調となっている。
	○	通信会社（社員）	販売量の動き	・A I 需要の伸びが顕著であるのに伴い、ブロードバンド接続の高速化需要も伸びている。
	○	その他レジャー施設 [飲食・物販系滞在型施設]（企画担当）	来客数の動き	・イベントで集客が増えている施設は好調であるが、年配客が比較的多い施設については、暑さによる外出控えの影響がみられる。
	○	その他住宅 [住宅設備]（営業担当）	販売量の動き	・リニューアル工事の受注残が多く、夏休み返上で対応したこともあり、売上は好調な見通しとなった。8月の年度末決算も目標が達成できている。

☐	商店街（代表者）	お客様の様子	・人出は多いが、買物には慎重になっている。
☐	一般小売店〔雑貨〕（店長）	販売量の動き	・消費税率の引下げ動向次第である。
☐	一般小売店〔呉服〕（店員）	販売量の動き	・取扱品は高額であり、生活にどうしても必要とはいえないため、客が購入を避けている。
☐	一般小売店〔菓子〕（営業担当）	販売量の動き	・残暑が続いており、商品の動きが芳しくない。早く気候が良くなって、購買意欲が高まることを期待したい。
☐	一般小売店〔書籍〕（管理担当）	お客様の様子	・夏のシーズンを通して、客の動きが安定している。
☐	百貨店（売場マネージャー）	来客数の動き	・8月に入り、全体の傾向が変化している。インバウンドが来客数、客単価共に悪化傾向にあるなか、国内客も中間層の動きが鈍化している。
☐	百貨店（マネージャー）	お客様の様子	・3か月前と比べて、大きな流れは変わらず、国内中間層の売上も4.9%増と堅調である。富裕層も特別招待会の実施により、宝飾品や美術品、特選中心の限定品など、資産価値の高い商品を中心に21.8%増と好調となっている。インバウンドも前年の大阪・関西万博の開催による反動で、来客数は30%減となったものの、客単価が57%アップし、売上は10%増となった。また、今月は気温が高かったため、クリアランスセールではサンダルやパラソル、サングラス、冷却商材などの動きが良くなっている。
☐	百貨店（マネージャー）	それ以外	・来客数や売上は増加傾向にあるものの、周辺人口も増えているため、好調な要因の把握が難しい。
☐	百貨店（商品担当）	お客様の様子	・8月前半は、売上や販売量が前年比で厳しい状況となったが、後半は売上も回復傾向となった。客の購買意欲にも変化がみられ、月の前半と後半では違う動きとなっている。
☐	百貨店（外商担当）	来客数の動き	・猛暑の影響もあり、来店頻度の減少がみられるが、インバウンドの来店増によりカバーできている。
☐	百貨店（販売推進担当）	お客様の様子	・来客数は増加しているものの、買上率、買上点数共に悪化しており、売上は前年並みとなっている。商品ごとの単価は上がっているものの、高額商品の販売が厳しいため、平均単価は前年並みにとどまっている。
☐	百貨店（商品担当）	来客数の動き	・インバウンド売上は好調で、前年比で30%増となっている。株高による効果で、富裕層を中心とした外商売上も好調である。一方、売上へのシェアが大きい食料品などのデイリー商品は苦戦しており、物価の上昇による節約志向がみられる。夏休みは子供向けのイベントやかき氷などのイベントによる集客には成功したが、関連商品に対する売上効果は少なかった。
☐	百貨店（宣伝担当）	お客様の様子	・インバウンドの動きは、大阪・関西万博が開催された前年並みの水準を維持しているが、国籍が大幅に変化している。特に夏休み期間は中国人客が大きく減り、東南アジアや欧米からの客が大きく伸びた。それに伴い、売れ筋商品が変化し、コト消費としてレストラン街が好調となっている。
☐	百貨店（売場統括）	お客様の様子	・前年比でみると、来客数が減少し、買上客数が増加する傾向が続いている。売上では、国内現金客の一定の増加はみられるものの、けん引役は富裕層やインバウンドであり、景気が回復しているとは言い難い。
☐	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・来客数は安定しており、3か月前と比べても変化はない。
☐	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・前年の備蓄米の販売点数や売上の多さは異常であったが、今年は新米価格が低くなっている。在庫の単一銘柄米やブレンド米なども飽和状態であり、価格を下げて販売しているため、利益率は低下傾向にある。
☐	スーパー（企画）	販売量の動き	・特売品は売れるが、それ以外の通常品は購入を絞る傾向に変化はない。米価格の値崩れもあり、売上は伸びていない。
☐	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・夏の繁忙期が終わって販売量が一気に減るほか、物価上昇の影響もあるなど、不安材料が多い。

☐	コンビニ（経営者）	単価の動き	・来客数はやや減少しているが、値上げ効果による客単価の上昇傾向は続いているため、売上は横ばいで推移している。
☐	コンビニ（店員）	来客数の動き	・この数か月は来客数の多い状況が続いている。
☐	コンビニ（店員）	来客数の動き	・猛暑の影響で来客数が伸びず、店が閑散としている時間帯が多い。
☐	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・3か月前と比べて、来客数や客単価は横ばいとなっている。前月は夏のボーナスの支給もあり、他の業界も含めて好調であったが、8月は売上が鈍化している。
☐	家電量販店（経営者）	お客様の様子	・新たな省エネ基準の導入や蛍光灯の生産終了により、エアコンやLED関連の案件が多く、3か月前から注文の多い状態が続いている。
☐	家電量販店（店員）	来客数の動き	・消費者の購入マインドに変化はない。物価の上昇や円安などの状況次第で変わると予想されるが、その見通しは立たないため、今後も現状維持が予想される。
☐	乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・金利の上昇による悪影響を懸念していたが、今のところは影響がみられない。
☐	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・来客数や購入を検討する客はやや増えたものの、かなり慎重な姿勢であり、検討期間が長くなっている。
☐	乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・依然として厳しい環境にあり、中小企業の取引先からも景気が良くなったという話は出てこない。
☐	乗用車販売店（マネージャー）	お客様の様子	・良くも悪くも、大きな変化の兆しはみられない。
☐	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・今月は数年ぶりに新型モデルが発売され、新車の販売台数の増加を期待したものの、目標には達していない。車両単価が高騰しており、商談の開始から成約までに時間が掛かるほか、失注もあるなど、順調とは言い難い。一方、中古車の販売やサービスの受注は従来どおり順調に推移している。客は価格と価値のバランスを以前よりもシビアに検討する傾向があり、新車の販売台数の大きな伸びは期待できない。
☐	住関連専門店（店員）	お客様の様子	・今月はボーナスの支給もあり、この時期に買換えを検討する客が増えている。
☐	その他専門店〔医薬品〕（管理担当）	販売量の動き	・スキンケア用品のほか、UV関連、制汗剤などの化粧品や化粧雑貨は順調に推移し、食品や日用雑貨などの生活必需品も好調であったが、医薬品や衛生用品の販売は減少が続いている。3か月前と比べて、客単価は上昇しているものの、猛暑の影響で来客数の伸びない状況が続いている。
☐	その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	来客数の動き	・来客数に変化はなく、売上も低迷したままであり、地金相場の上昇で仕入コストだけが増加している。
☐	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	販売量の動き	・ガソリンの出荷量は前年比で105%と増えている。西日本は天候要因による大きな影響もなく、前年比ではプラスの推移となった。中東情勢の変化による影響でガソリン価格は高止まりしているが、出荷量には影響していない。
☐	その他小売〔インターネット通販〕（オペレーター）	販売量の動き	・受電数には変化がなく、受注量にも目立った動きはない。
☐	その他小売〔ネット通販〕（管理担当）	お客様の様子	・サイトへの一定数のアクセスはあるものの、買物カートに入れた後に離脱する、カゴ落ちの割合が高くなっている。
☐	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・8月の第1週は全くといってよいほど人通りがなく、近隣のスーパーにも客が余りいなかった。お盆は忙しかったが、その他の期間は暑過ぎたため、来客数は伸びていない。
☐	その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	販売量の動き	・単価は上がっているが、値上げはできていない。夏という季節要因で客は増えているものの、景気が良いとはいえない。

□	観光型ホテル (経営者)	販売量の動き	・ 8月は大型の団体客の予約はなかったものの、個人客の利用が増えたため、大阪・関西万博が開催された前年とほぼ同じ販売量となっている。当地区では大雨や台風などの災害がなかったことが主な要因である。
□	都市型ホテル (管理担当)	お客様の様子	・ 来客数はそれほど変わっていない。
□	都市型ホテル (客室担当)	販売量の動き	・ 稼働率が伸びず、特に欧米からのインバウンドの減少がみられる。
□	都市型ホテル (販売促進担当)	販売量の動き	・ 8月の客室部門は、見込みよりも売上や宿泊者数が少ない。春先から7月まではまづまづの動きであったが、今月の不調の理由は見当たらない。8月だけを見ると、大阪・関西万博の開催で好調となった前年は別として、前々年の水準も下回っており、売上は5%減で、稼働率も82%台と少し低い。レストランも3か月ほど前から不調となっており、例年6～7月は不調となる時期であるが、例年と比べても来客数も少なく、活気がない。
□	旅行代理店（支店長）	販売量の動き	・ 中東情勢の変化による影響は横ばいであるが、燃油サーチャージの引上げなどで上向きとはいえないほか、令和8年熊本地震の影響もあって不安定である。
□	タクシー運転手	お客様の様子	・ 暑さの影響で、昼間はタクシー利用率が上昇傾向にあるものの、夜間の利用率は少しずつ低下している。
□	通信会社〔貴金属オークション〕 (経営者)	お客様の様子	・ 直近3か月については、客の動きに大きな変化はない。不要な買物はしないため、商品が少し余っている。
□	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・ 販売量は3か月前と比べて変わらない。ただし、メモリ価格の高騰の影響で、貸出機器の料金が上がっている。
□	通信会社（役員）	販売量の動き	・ 販売量は前年比で10%程度落ち込んでおり、過去3か月と同じような状況にある。
□	テーマパーク (職員)	来客数の動き	・ 猛暑のため、外出を控える必要がある状況で、来客数を増やすのは困難である。
□	遊園地（経営者）	来客数の動き	・ 消費が上向く要因がない。
□	美容室（店長）	来客数の動き	・ 今月中旬は心配されたほど暑くなく、台風の雨もそれほど多くなかったため、来客数が予想よりも増えている。
□	住宅販売会社 (経営者)	販売量の動き	・ 都市部に比べて、周辺地域では地価の上昇が見込めない。
□	その他住宅〔情報誌〕 (編集者)	お客様の様子	・ 建築費の高騰が続き、不動産価格は引き続き上昇傾向にあるが、都心のタワーマンションを中心とした投機目的での転売物件は、一部で価格調整が始まっている。ただし、高騰していた物件価格も若干の価格調整で成約に至っていることから、富裕層の動きは引き続き底堅いともいえる。
▲	一般小売店〔時計〕 (経営者)	来客数の動き	・ 猛暑日や酷暑日が続くなか、外出控えに対する行政の要請やマスコミの報道もあり、極端に来客数が落ち込んでいる。商業施設のような全館冷房が困難なほか、時計は不要不急の消費でもあるため、仕方ないとみられる。
▲	一般小売店〔鮮魚〕 (営業担当)	来客数の動き	・ 物価上昇による節約志向が顕著であるほか、インバウンドも欧米系が多く、小物の購入や食べ物のシェアが多いため、厳しい状況である。
▲	一般小売店〔化粧品〕 (経営者)	それ以外	・ 8月前半は、台風や令和8年熊本地震などの影響で、ショッピングモールに対する客の不安がかなり高まり、売上が大きく減少した。ただし、月後半は徐々に客足が戻り前年を超え、月全体では99%とやや前年を下回る結果となった。客単価の上昇が来客数の減少で相殺された形であるが、この数か月は来客数が前年比で95%、客単価が105%という傾向が続いている。商品別には、フレグランスなどの香り関連商品が好調な一方、基礎化粧品などは厳しい結果となっている。
▲	一般小売店〔衣服〕 (経営者)	来客数の動き	・ 来客数の減少と同時に、購入金額も下がっているなど、消費者の購入意欲の低下がみられる。

▲	百貨店（企画担当）	販売量の動き	・前年の風評被害による反動で、前月の免税売上は前年比で2けた増となった一方、今月は2けた減となる見込みである。旅行代金が上がった8月前半から20日にかけて、中国からのインバウンドの売上が大幅に減少したことが主な要因である。なお、中国以外のインバウンド売上は前年比で2けた増であった。21日以降は旅行代金が落ち着いてきたこともあり、中国人客の売上も回復傾向となってきたが、国内客の売上には、外商、その他販売共に大きな変化はみられない。
▲	百貨店（外商担当）	来客数の動き	・前年は大阪・関西万博が開催された影響もあるが、来客数が前年比で10%減となっている。猛暑のため、新作の秋冬商材の動きも遅い。
▲	百貨店（管理担当）	販売量の動き	・営業面積の縮小により、前年比で売上が大幅に減少したものの、店内イベントでの集客が奏功し、減少幅は予想よりも小さい。
▲	スーパー（経営者）	お客様の様子	・ディスカウント商品を中心に、客の購入は必要最小限となっている。
▲	スーパー（店長）	お客様の様子	・来客数は維持しているが、売上が減少している。1人当たりの売上が減っているため、他店との間で、安い商品の買い回りが増えているとみられる。
▲	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・お盆商戦は盛り上がり欠け、高額商品の動きも例年に比べて低調となった。ハレの日にもぜいたく品を買わないなど、消費者の間では節約志向が更に強まっている。
▲	スーパー（社員）	来客数の動き	・ここ数年続いている商品価格の上昇で、客単価の上昇傾向が続いている。ただし、来客数は競合店が増えた店舗だけでなく、昼間の暑さもあって多くの店舗で減少している。
▲	コンビニ（経営者）	単価の動き	・最近の傾向として客単価が約5%低下している。昼食時に1人用の総菜やグリルチキン、サラダチキンなどを買い、グミやチョコレートやビスケットなどで小腹を満たすといった節約志向がみられる。
▲	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・8月に入って、ショーウィンドウに立ち止まる客が増えているほか、店内に入ってくる客も少し増加している。ただし、実売は厳しく、財布のひもは依然として固いままである。
▲	衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・気温の高い日が続いているほか、お盆期間の帰省の動きと重なり、購買意欲や来客数が鈍化している。
▲	家電量販店（店員）	販売量の動き	・夏の需要が一段落してきたが、今年は前年に大きく売れたゲーム機やパソコンに代わる需要がみられない。
▲	家電量販店（企画担当）	来客数の動き	・新たな省エネ基準の導入や猛暑による影響で、エアコンの販売がお盆商戦までは非常に好調であったが、お盆明け以降は来客数が激減している。リフォーム補助金も、省エネ型給湯器と内窓関連にしか活用できていない。
▲	家電量販店（営業担当）	それ以外	・地元の工務店の倒産が増えており、当社の客との商談も、その影響で打切りとなるケースがみられる。
▲	その他専門店〔食品〕（経営者）	販売量の動き	・値上げをしているにもかかわらず、売上が横ばいである。
▲	一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・来客数が減少しているほか、販売量の減少で客単価も低下している。
▲	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・期待していたプレミアム付商品券の利用状況は、好調であった前回には程遠い。会社の経費で支払われる宴会などは、一定の需要がみられるが、割り勘での利用や、仕事終わりでの軽めの利用が激減している。特に月中旬からはディナータイムの動きが悪化しているなど、外食では節約志向が目立っている。
▲	その他飲食〔洋菓子〕（管理担当）	来客数の動き	・5月以降、前年を下回る動きが続いている。駅ビルの工事が完了するまでは、厳しい状況が想定される。
▲	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・駐車場の利用状況には、平日と週末で大きな差があるが、週末でも満車になりにくい。

	▲	都市型ホテル (フロント)	単価の動き	・都市部やテーマパーク周辺での宿泊需要が鈍化し、各ホテルの稼働率や客室単価が低下している。競争の激化に伴い、周辺ホテルでも値下げの動きが広がり、収益環境は厳しさを増しているなど、業界の景況感は悪化傾向にある。
	▲	都市型ホテル (客室担当)	来客数の動き	・お盆休み明けは新規受注が取り込めていないなど、顕著にインバウンドの減少が見受けられる。9月初旬も予約の動きが鈍い。
	▲	旅行代理店 (役員)	お客様の様子	・夏休みの旅行の間際予約も少なく、9月の大型連休の申込状況も芳しくない。客との会話でも、様々な生活必需品の値上げで余裕がないため、旅行はもちろん、外食も控えているという声が多い。
	▲	旅行代理店 (役員)	販売量の動き	・猛暑の影響もあり、夏休み期間中の旅行需要が伸び悩んだほか、今年は台風の発生が多く、ツアーの中止やキャンセルが発生したため、販売環境は厳しいものとなっている。
	▲	通信会社 (経営者)	お客様の様子	・物価や原材料価格の上昇で、利益が圧迫されている。
	▲	競輪場 (職員)	単価の動き	・今月の客単価は8357円で、3か月前の8994円よりも下がっている。
	▲	競艇場 (職員)	販売量の動き	・ネット投票の伸びが縮小し、前年並みとなりそうであるが、単価全体は大きく変わっていない。一方、拠点のレース場や場外発売場での販売は、前年比で減少の見込みとなっている。
	▲	その他レジャー [スポーツ施設] (経理担当)	それ以外	・為替レートの悪化が続いている。
	▲	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・市内中心部の地価が下降気味であり、金融機関の融資が厳しくなっている。
	▲	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・建築資材や設備の仕入価格が上がる一方、価格転嫁はできない。
	▲	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・新築分譲マンションについては、金利の上昇やローン審査の厳格化で、実需用、投資用共に動きが厳しくなっている。その結果、月間契約数が減少し、完売までの販売期間が延びている。
	▲	住宅販売会社 (企画担当)	販売量の動き	・地価や建築費の高騰により、受注状況が更に厳しくなっている。
	▲	その他住宅投資 の動向を把握できる者 [不動産仲介] (経営者)	販売量の動き	・物価や金利の上昇による影響が大きい。
	▲	その他住宅 [展示場] (従業員)	販売量の動き	・運営している住宅展示場全体の成約数は、3か月前と比較して、僅かながら減少傾向にある。
	×	一般小売店 [ガラス細工] (店長)	それ以外	・石油不足がいつまでも続く状況では、商品が生産できない。
	×	スーパー (販売促進担当)	販売量の動き	・近畿は来客数と販売量の両面で苦戦している。ドラッグストアや競合チェーン店の進出に加え、前年の大阪・関西万博の反動による来客数の減少が大きく影響している。
	×	衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・売上が前年よりも40%程度落ちている。暑さの影響もあるが、とにかく来客数が少ない。
	×	家電量販店 (店員)	お客様の様子	・商品価格の値上げや作業費の高騰により、買換えではなく、修理で対応できないかという質問が多い。客も買換えの必要性を理解しているものの、なかなか諦めがつかず、納得するまでの時間が以前よりもかなり長くなっている。
	×	住関連専門店 (店長)	お客様の様子	・輸入品の販売では、全ての客に価格が高いといわれる。国内客の値頃感の低さは、長かったデフレによる輸入元の欧州と日本の物価の差に起因するが、実際の価格は円安の影響で上昇が続いている。
企業	◎	—	—	—

動向 関連 (近畿)	☐	食料品製造業 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・猛暑日が続くなかで、新商品のヒットもあり、炭酸飲料の売上が少し上向いている。
	☐	食料品製造業 (管理担当)	受注量や販売量の動き	・8月の限定商品の売行きが予想を上回っている。
	☐	化学工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今は好調が続いているが、ナフサ問題による春の大幅な値上げで需要の減退が始まっているため、今後は景気が悪くなる。
	☐	化学工業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・車載関連製品の受注が伸びている。
	☐	経営コンサルタント	取引先の様子	・取引先の小売店、飲食店では売上が増えている。値上げが最大の要因であるが、今ほどの商品も値上がりしているという理由で、客に値上げを受け入れてもらえたという店主が増えている。
	☐	パルプ・紙・紙加工品製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・今月は稼働日数が少ないことを考慮すると、大きくは変わっていない。
	☐	プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量自体に変化はなく、通常の数値や納期での推移となっている。
	☐	窯業・土石製品製造業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・物価の上昇と円安傾向の動きは大きく変わらず、身の回りの景気にも大きな変化はない。物価の上昇は続いているが、米の価格は低下傾向であるほか、歴史的な円安基調も日米協調介入で1ドル160円台から150円台に変化するなど、一進一退の動きがみられることから、全体としては変わらない。
	☐	金属製品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・取引先には材料価格の上昇分に加えて、加工費の上昇分の値上げ交渉を行っているが、難航している。
	☐	電気機械器具製造業（宣伝担当）	受注量や販売量の動き	・洗濯機や冷蔵庫、エアコンなどの大型商品は、店頭の荷動きが前年をやや下回る水準で推移している。
	☐	電気機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・電子部品や樹脂成型品の価格高騰が進んでおり、当面は下がる様子がない。今後の動向次第では、設備投資の動きが更に鈍くなるとの意見も多い。
	☐	輸送用機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・5月以降は景気が良いとはいえない。消費者物価の上昇で耐久消費財に予算が回っておらず、2024年4月以降の運送業の勤務体制変更による運賃上昇の影響も出ている。また、高い気温が続いているため、屋外で使用する物については、来客数の減少がみられる。
	☐	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注は増えているが、競合先も増えつつあり、相見積りとなって受注できない案件も出てきている。粗利益は増えているものの、売上は伸びていない。
	☐	建設業（経営者）	取引先の様子	・取引先の業績が好調であり、受注件数が増えているが、建設資材の不安定な納期や価格の高騰に苦慮している。
	☐	輸送業（サービス担当）	受注量や販売量の動き	・全体の荷物量が減少傾向にあり、主に小売業の荷物が前年比で10%減となっている。また、猛暑の影響で購買意欲が低下している。
	☐	金融業〔保険〕 (経営者)	受注量や販売量の動き	・原価が下がっている商材もなくはないが、総じて上昇傾向にあるほか、10月からの最低賃金の引上げに伴う雇止め話もある。当社でも以前からの人件費の高騰に伴い、アルバイトの募集はストップした。店舗が入れ替わる周期も早くなっているため、外食業では今後も倒産件数は増える予想される。
	☐	金融業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・取引先の資料では、受注量の増加は確認できないほか、会話の中にも受注量が増えているという内容は少ない。
	☐	広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・4月以降は交通広告の受注に大きな動きがなく、前年よりも注文の規模が小さい状況が続いている。
	☐	その他サービス業〔店舗開発〕 (従業員)	受注量や販売量の動き	・お盆期間中の人出は、令和8年熊本地震の影響のほか、足元の物価や旅行代金の上昇もあり、前年比でやや減少している。

	□	その他サービス業〔受託調査〕 (調査担当)	受注量や販売量の動き	・原材料不足により、販売単価を全体的に引き上げたところ、客の買物は購入量、購入品数共に減少している。購入品数は前年の約8割で、品質より価格を重視した商品が売れている。また、し好品はセール時や特典のポイントが2倍の日にまとめて買っている。米に関しては、価格が下がってきているものの、想定していた以上に買わない。その一方、パンやパスタの売上は堅調に推移している。
	□	その他非製造業〔機械器具卸〕 (経営者)	受注価格や販売価格の動き	・石油関係の商品の動きがまだ滞っているほか、値上げも続いているため、動きが悪い。
	▲	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・お盆休みが終わってから、売上が徐々に落ちている。夏休み中の支出の増加や、猛暑で昼間の外出が減ったことも影響している。
	▲	繊維工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・問屋経由の注文の6割は消費者への販売であり、物価の上昇などで購買意欲が左右され、売上は減少している。一方、一部の富裕層への販売は他社との競合が激化し、商品の付加価値に加えて、おもてなしの競争となりつつある。メーカーが今まで対応してこなかった領域でも発想の転換が求められるなか、地理的な要素も考えながら、販売の展開を考えていきたい。
	▲	繊維工業（管理担当）	それ以外	・原材料価格が高騰している。
	▲	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新規受注は減少傾向であり、売上の内容は既存設備の改修が中心となっている。取引先の投資が設備に向かっていないことは明らかで、対象がA Iなどに変化しているとみられる。ものづくりに関する産業構造の変化を実感している。
	▲	その他製造業〔履物〕（団体職員）	受注価格や販売価格の動き	・コストの上昇分を販売価格に転嫁できず、収益が圧迫されている。
	▲	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・住宅価格が上がり過ぎて、計画を変更せざるを得ない客が増えている。
	▲	輸送業（経営者）	取引先の様子	・建築資材の輸送量が減っており、特に至急扱いの荷物がなくなっている。
	▲	金融業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・繁忙期を過ぎて、忙しさも一段落したが、取引先との値上げ交渉は進まず、経費の削減も厳しい状態である。
	▲	不動産業（営業担当）	取引先の様子	・中国人の居住条件が厳しくなり、タワーマンションを売却する動きが増えている。大都市のタワーマンションの値下がりも始まるなど、景気は悪くなっている。
	×	その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・インフレが続いている。
雇用 関連 (近畿)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・下期に向けて、少しずつであるが求人数が増えている。
	○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・物価上昇の影響は続いているが、中東情勢による資材不足には落ち着きがみられるほか、求人数にも前年比で若干の増加がみられる。
	○	民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・学校などの夏休み中の改修工事が増えている。
	□	人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・D X対応の求人が増えてきた印象を受けるが、全体としては高止まり傾向で大きな変化はない。
	□	人材派遣会社（営業担当）	それ以外	・今年の春闘の賃上げ率は5%を超えたが、輸入価格の上昇に伴う、企業のコストや物価の上昇が予想されるため、結果としては変わらない。

□	人材派遣会社 (営業担当)	求人数の動き	・建設業界や一般企業向けの派遣は、人手不足に伴って事務職の求人が堅調に増えている。一方、通信業界向けの派遣では、A I の導入や業務の効率化により、従来の事務職の求人が減少傾向にある。通信分野では高度なスキルを要する求人が増えるなか、求職者の希望条件とのギャップが生じ、人選や成約が難しくなっている。全体としては、一部業界での求人増というプラス要素と、通信業界における求人減や条件のミスマッチというマイナスの要素が相殺し合っている。
□	新聞社〔求人広告〕 (担当者)	それ以外	・物価の上昇は進んでいるが、特に広告関連の動きに変化はない。
□	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・3か月前は中東情勢の影響により不透明感があった。直近は、以前と同じではないものの、原料や商品が供給され、事業への影響が少なくなっている。
□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は例年並みで推移しているが、就職件数は微減となっている。事業所からの話では、物価上昇は続いているものの、中東情勢の影響による原料不足は解消傾向にある。
□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・8月の求人の動きは、前年と比べても大きくは変わらない。
□	民間職業紹介機関 (営業担当)	求人数の動き	・2027年3月卒業予定者の採用は、学生、企業共に苦戦している。現時点でも、知名度はないが条件の良い企業の求人がまだ残っている。一方、2028年3月卒業予定者の採用に向けたインターンシップの広報は夏がピークで、秋以降は緩やかな下降傾向となる。当社の秋のイベントも縮小予定であるほか、大学内での合同説明会も秋は見送りや縮小の動きが出ている。全体的に大きな変化はない。
□	民間職業紹介機関 (営業担当)	求人数の動き	・求人数や派遣依頼件数は、例年どおりで大きな変化はなく、3か月前から大きな増減はみられない。また、企業の採用意欲や派遣スタッフの稼働状況にも大きな変化はないため、景気全体も特に変わらない。
□	学校〔大学〕 (就職担当)	求人数の動き	・求人事業所数は前年よりもやや増えているが、新卒採用の早期化によるものとみられる。募集人数が増加傾向となっているわけではなく、他業界に比べて選考時期の遅い、医療業界でも早期化が進み始めている。
□	学校〔大学〕 (就職担当)	求人数の動き	・新卒求人の動きをみると、活発な採用活動が続いている。
□	その他雇用の動向を把握できる者	求人数の動き	・近畿の新規求人数は前年比で2か月ぶりの減少となった。下水道などのインフラ更新需要が好調な建設業や、半導体関連が好調な製造業、人手不足が深刻な医療福祉などは増加が続いている一方、物価上昇による購入控えなどの影響が大きい、卸売・小売、宿泊・飲食では減少が続いている。全産業に占める割合が大きい、卸売・小売、宿泊・飲食の求人が上向かなければ、全体の求人数もなかなか増加しない。
▲	人材派遣会社 (管理担当)	求人数の動き	・中国からの渡航自粛に加え、中東情勢の影響が長期化し、派遣先のホテルの業績が悪化している。それに伴い、派遣社員の採用や期間の延長を控える施設が増えている。
▲	新聞社〔求人広告〕 (営業担当)	それ以外	・円安の進行や物価の上昇に、賃金の動きが追い付いておらず、景気は悪くなる一方である。
▲	学校〔大学〕 (就職担当)	それ以外	・少し前から金利が上昇傾向にあり、消費者、企業共に、金利負担の増加による悪影響を受けている。
×	—	—	—